

棚田LOVER's 通信

第5号

2012年10月 NO.5
棚田LOVER's 5周年

～棚田を愛し、棚田を育む 未来の子どもたちのために～

発行：NPO法人 棚田LOVER's(ラバーズ)

(棚田の保全と活用、都市と農村交流、地域活性化を目的とする団体)



棚田LOVER'sメンバー
からのメッセージ



NPO法人棚田LOVER's
メンバー菊池陽子さん

「農業って実験！」

大学で培養とか実験とかやってたんですが、
農業もまさに実験。土づくりから始まり、
種まきから収穫まで、自分でモノを作って、
それがどんな仕上がりになるかはやってみないと
分からない。出た結果には必ず何か理由がある。
それを考えてまた次に生かしていけます。

「観察が大切」

自然相手は本当に難しいけど面白いです。
暖かい時なんか「いつの間に!？」ってぐらい野菜が成長したり、
同じように作ったはずなのにその時の気候や土地の特徴によっ
て全然出来が変わってきたり。
病気や虫、雑草などにも早めに気付いてあげる事も大切。
私も必死で楽しみながら勉強中です。

「外に出れるって気持ちいい！」

秋になって、少し涼しくなってきました。畑でレタスの収穫をしていると、鳥の鳴き声が聞こえたり、
猫が邪魔しに来たり、軽トラで移動してる途中で花のつぼみが膨らんできたなあって思ったり。
そんな季節を感じながら、棚田LOVER'sは自然の中で田植えや稲刈り、野菜作りをしています。
そして、商店街などでお米や野菜の販売を通じて、棚田をPRするとともに農村や自然の気持ち
よさを伝えています。(実は棚田PRキャラクターは私もデザインしました。)
それらを通じて農業っていいなとホント思います。私は福島に行って農業を頑張っています！
外に出るとても気持ちいいですよ☆みなさんも、ぜひぜひ☆

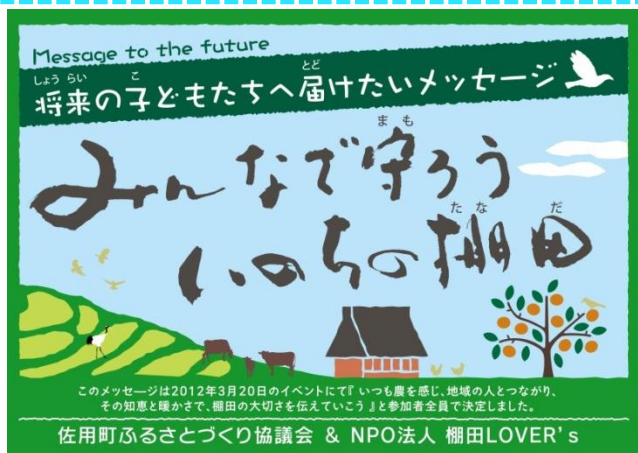
棚田LOVER'sとは？ HP：<http://tanadalove.com/>

棚田LOVER'sは、2007年5月に立ちあがった有志団体です。棚田の保全と活用、都市と農村交流、地域活性化を目的として、兵庫県市川町、香美町、姫路市、佐用町、神戸市、大阪府で田植え(6月)・稲刈り(9月、10月)・試食会、棚田の普及啓発等の活動をしています。

2012年3月20日（火・祝）フォーラムのご報告

農村と里山の文化を未来につなげるために、今私たちができること ～兵庫県での棚田サミット開催を目指して～

2012年3月20日（火・祝）に、兵庫県佐用郡佐用町にて「農村と里山の文化を未来につなげよう～今私たちが棚田に対してできることを考えていきませんか？～」と題して、佐用町ふるさとづくり協議会と共催でフォーラムを行いました。午前中は田和地域の石垣の棚田（写真）や目高という集落の見学、お昼はおいしい地元産のお弁当、その後、基調講演や意見交換会を行い、最終的に、「みんなで守ろう！いのちの棚田」（写真）というメッセージを参加者全員で決定し、ステッカーにしました。兵庫県での棚田サミット開催を目指していきます！



ステッカー、エコうちわも作成しました。

新しい会員のみなさん

山本文則さん
本川昌孝さん
岩田奈緒美さん
塚本益広さん
森田守さん
尾崎雄一さん
誠にありがとうございます。

さっちの有機農業

オーガニックビジネスプランナーの鈴木さと子さん（さっち）が有機農業の最近の話題や魅力を話します。

第5回：3.11以降の有機農業 果てしない議論

福島第一原発4号基がもし大変なことになったら... という想定でパートナーと夏の旅行を企画した。つまり避難訓練である。当然西への移動となり、大阪、京都の知人を訪ねる旅となった。アートな庭師、学生さん、20年来の親友、有機農家... ささまざまな人にお世話になった。

大飯原発が再起動となってしまったタイミングだったこともあり、各所で放射能の話にもなった。ある時、こんなディスカッションが繰り広げられた。（ディスカッションになる前提の話）

たくさん関東からも西に避難した知人がいる。生産者と信頼関係を結んでいたはずの提携の消費者でさえも（むしろそのような消費者こそという言われ方もするが）、関東や東北の生産者の農産物を買って控えている。大手専門流通も西の野菜というのを売りにして売り上げを伸ばしているようだ。一方で東京にとどまり、福島県の有機農家さんを応援するという考えで検査をパスした農産物は積極的に食べるという友人もいる。

Aさん：いくら不検出でも汚染された土地や空気の中で生産するという事は、農家さん本人も被爆するわけだよね。
Bさん：もしかしたら、買い支えることでその福島有機農家さんをその土地に縛っているのかもしれない。消費者の期待に応えようと言う気持ちにならないだろうか。

Cさん：うーん。「消費者が応援するから」というよりは、農家さん自身が土地や地域への愛着があって、なんとかしたいという思いがあって、あえて土地にとどまることを選択しているのだと思うんだけど...

Bさん：いやー 消費者の立場としてはそこも考えなくてははいけないのでは？
この後、果てしない議論となった。

あなたなら、どう考えますか？

私は消費者が買うことで生産者を土地に縛っているとは思わない。でも、もしそうなのであれば汚染が進んでしまった地域の人にはいつでも移住する権利やそれをサポートする体制がなければと思う。その選択肢を常に提示する、それが非被災地の人間の役割ではないかと思う。

有機農業講座開催

2012年5月20日(日)と8月19日(日)13時～17時に姫路市の労働会館にて有機農業講座を行いました。5月20日(日)は、「おいしい野菜を育てるための土づくり～自然農法の種の魅力～」と題して(公財)自然農法国際研究開発センター 研究部 育種課 巴清輔さん、兵庫県立農林水産技術総合センター環境・病害虫部 主任研究員の小河甲さんをお招きしました。また、8月19日(日)は、「有機農業の実践と世界での取り組み～いかに農村に定着するか～」と題し、講師に橋本有機農園 橋本慎司さん、一般社団法人 MOA自然農法文化事業団 関西支所 自然農法普及員 杉本晃昭さんをお招きしました。参加者からは、『とても有意義でした。また参加したいです』という感想をいただきました。より良い講座の開催を目指していきます。

星空コンサート開催

7月21日(土)開催の第4回星空コンサートでは約100名にご参加いただき、棚田保全金が1101円、震災支援金は14340円集まりました。支援金は日本財団に募金させていただきます。誠にありがとうございました。

講座やコンサートの報告は、ブログ：<http://blog.tanadalove.com/>をご覧ください

牛尾さんの 0(ゼロ)通信 振込用紙のメモ欄から

真の有機農業を約30年間目指されている牛尾武博さんが書かれている0(ゼロ)通信の中から(0は原点・卵・添加物0を意味する。)特に刺激的なものを引用させていただいて今旬の野菜や作物等を紹介します。

「牛尾さん、タマネギ植えの援農楽しかったです。清美さん(妻)の昼食はいつも楽しみです。息子さんの鴨料理もすごく美味しかったです。手作りプリンには感動しました。お忙しい中を、駅まで送迎して頂きありがとうございました。連れも喜んでいました」大阪のSさんのメモだが、近々結婚とのこと、おめでとう。

「私の元気の源は、牛尾さんからの野菜です」。これは、東京の弁護士事務所勤務で釧路出身のSさん。「いつも有難うございます。実エンドウは、豆ご飯にしました。年に一度、季節を感じる野菜ですね。新ジャガイモは、ホクホクして美味しくいただいています」と、神戸市のEさんからメモをもらったことがあったが、彼女は今、病気で臥せておられるとかで心配している。

大阪のIさんは、「今朝届きました。早速トウガラシは全部炊き、キュウリはピクルスに、お昼ご飯は、青ナスやピーマン、ジャガイモでカレーを作りました」。

4人の子持ちで、うちの援農に何回も来た神戸のKさんからは、「いつもお世話になり、有難うございますカモ肉、正月明けに頂きました。たっぷり入っていて、とっても美味しかったです。娘と手を合わせてから頂きました」。

「2週間に一度の金曜日、ピンポンと鳴ると、子供たちが“牛尾さんの野菜”といって、宅配便を玄関で受け取り、冷蔵庫の一つ一つしまってくれます。虫を見つければ育て、おもしろい形の野菜を見ては、歓喜しています」。滋賀県のYさんからだが、実は面白い形のニンジン等を、小さいお子さんのいる家族には遊び心で、わざと入れたりもしてきた。

「もうすぐ1歳になる息子は、送って頂いた野菜で育てる、ラトウユが大好きです」。これは川崎市のHさん。「その節はご心配いただき有難うございました。今後、滋賀県に住む予定です。落ち着いたら、また、野菜を頂きたいと思っています」。これは福島原発の事故で、いわき市から2人の子どもをつれ大阪の実家へ避難したNさんからだ。

「毎回、箱を開けるのが楽しみです。みずみずしくて濃い味、初めて料理する野菜、手作りの餅や漬物に感動...事情で東京に引っ越します。西日本に移住したかったのですが、叶いませんでした。これからは、食べ物で子どもを守っていきます」。昨年9月から届けている愛知の女性からのファクス通信。これらのメモに私は一喜一憂、これからも期待に応え続けたい。





子どもや孫のために、
本物の野菜の味を伝えたい！

今回のゲストは中野ふぁーむの中野淳一さん、中野薫さんです。有機農業を志して、大阪から姫路市の夢前町に移住されました。姫路市の商店街でのイベントでもご活躍いただいています。メッセージをいただきましたので、掲載します。

太陽と大地のめぐみをいただき愛情たっぷりの野菜を届けたい！
のどかな自然の中、太陽と大地のめぐみをいただき、
夢前川の清流の流れる横で農薬、化学肥料を一切使わず、
からだに優しい野菜を作っています。
農薬を使用せず土を生かした野菜作りを目指しています。

棚田LOVER's スタッフからのメッセージ

自然豊かな市川町で農業を楽しんでいます。
土にふれる喜びを一緒に味わいませんか？（副理事長：松尾龍哉）
愛ある暮らしをenjoy!農業life!（名誉顧問：加岳井誠）



しのちゃんの棚田の植物

第4回 サギソウ（ラン科ミズトンボ属）

東京大学で棚田の植物を研究していた出口詩乃さん(しのちゃん)が植物の説明と想いを語ります。



シラサギが翼を広げたような形の花をしていることから、この名前がついています。棚田の畦という小さな空を飛ぶ優雅なサギソウの姿を見ると、思わず興奮するのは私だけでしょうか。今ではすっかり希少種となってしまったサギソウですが、溜め池からの水が染み出るような畦や日当たりの良い湿原などでは、厳かに美しく、この夏もきっと花を咲かせていることでしょう。花の美しさ、自然の造形美に、皆さんも心ときめかせてください。幸せは、意外とすぐその足元に。そんな当たり前の大切さを、サギソウが教えてくれている気がします。